

令和 2 年度

事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I	地域福祉課	
	総務・福祉係.....	1
II	生活支援課	
	生活支援係.....	16
III	高齢者支援課	
	地域包括支援センター.....	23
IV	障がい支援課	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター“結”.....	30
V	居宅介護支援課	
	居宅介護支援事業所.....	38
VI	訪問介護事業課	
	訪問介護事業所.....	41
VII	訪問入浴事業課	
	訪問入浴事業所.....	45
VIII	尾鷲通所介護事業課	
	尾鷲社協デイサービスセンター“いきいき”.....	46
IX	輪内高齢者サービスセンター	
	輪内デイサービスセンター.....	48
	輪内高齢者サービスセンター.....	50

I. 地域福祉課

総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和2年6月11日 出席者 11名

- 議題 ・ 定款の変更について
・ 副会長の選任について
・ 令和元年度事業報告(案)について
・ 令和元年度決算(案)について
・ 令和2年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 評議員選任候補者の推薦(案)について
・ 評議員選任・解任委員会の招集(案)について
・ 令和2年度定時評議員会の招集(案)について

報告 ・ 社会福祉充実残額について

第2回 令和2年12月10日 出席者 10名

- 議題 ・ 令和2年度【第2回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 令和2年度第2回評議員会の招集(案)について

報告 ・ 時給等職員の雇用等に関する就業規則等の変更について

第3回 令和3年3月11日 (書面決議)

- 議題 ・ 令和2年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 令和3年度事業計画(案)について
・ 令和3年度【当初予算】資金収支予算(案)について
・ 評議員選任候補者の推薦(案)について
・ 評議員選任・解任委員会の招集(案)について
・ 令和2年度第3回評議員会の招集(案)について
・ 苦情解決事業 第三者委員の選任(案)について

(2) 評議員会

第1回 令和2年6月26日 出席者 30名

- 議題 ・ 定款の変更(案)について
・ 令和元年度事業報告(案)について
・ 令和元年度決算(案)について
・ 令和2年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について

報告 ・ 社会福祉充実残額について

第2回 令和2年12月18日 出席者 31名

- 議題 ・ 令和2年度【第2回補正予算】資金収支予算(案)について

第3回 令和3年3月26日 出席者 26名

- 議題 ・ 令和2年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 令和3年度事業計画(案)について
・ 令和3年度【当初予算】資金収支予算(案)について

(3) 監事監査

- ① 令和2年5月20日 監事2名
・ 令和元年度の事業及び決算についての監査
- ② 令和2年12月3日 監事2名
・ 令和2年4月～令和2年9月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 令和3年1月27日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査委員事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

令和3年度事業強化に備え、採用試験を行った。

- ・ 採用者数 正規職員 2名
(令和2年度退職者 正規職員 1名、嘱託職員 2名)

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

資格取得の状況 社会福祉士 1名
主任介護支援専門員 1名

(3) 活動基盤の改善・充実

会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により高まる会計・税務の専門性に対応するため、引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。

令和2年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制（令和3年3月末日現在）

評議員 33名

会長 1名
副会長 2名
理事 常務理事 0名
理事 7名
監事 2名

事務局

職員数 117名

（内訳）

正規職員 26名

嘱託職員 31名

時給職員 60名

〈前年度職員数120名〉

地域福祉課

総務・福祉係

主幹 1名

総括主任 1名

主任 2名

正規 3名

嘱託 5名

時給 5名

生活支援課

生活支援係

主幹 1名

総括主任 1名

正規 1名

嘱託 1名

時給 2名

高齢者支援課

地域包括
支援センター

主幹 1名

総括主任 1名

主任 1名

正規 4名

嘱託 2名

時給 1名

障がい支援課

紀北地域障がい者
総合相談支援
センター

主幹 1名

主任 1名

正規 2名

嘱託 5名

時給 2名

居宅介護支援課

居宅介護
支援事業所

管理者 1名

総括主任 1名

正規 2名

嘱託 2名

時給 1名

訪問介護事業課

訪問介護
事業所

管理者 1名

嘱託 9名

時給 26名

訪問入浴事業課

訪問入浴
事業所

管理者 1名

時給 4名

尾鷲通所介護事業課

尾鷲通所
介護事業所

管理者 1名

嘱託 1名

時給 7名

輪内高齢者
サービスセンター

輪内通所
介護事業所

管理者 1名

嘱託 3名

時給 12名

輪内高齢者
サービスセンター

所長 1名

（兼務）

3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託	7 件	530,000 円
指定預託	2 件	24,000 円
合 計	9 件	554,000 円

※前年度合計 20 件 884,161 円

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

19 クラブ・会員数 927 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座については新型コロナウイルスの影響により、開催しなかった。

14 講座 0 名（前年度 14 講座 2,818 名）

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式（尾鷲市との共催）

開催日：令和 2 年 11 月 7 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参列者：20 名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長

苦情受付担当者 総務・福祉係長

第三者委員 3 名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位：件)

苦情の内容	令和２年度	令和元年度
ケアの内容に関わる事項	1	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	0	1
本会以外への苦情等	0	0
合計	1	1

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出て、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：6 団体（前年度 23 団体）

利用回数：延べ 12 回（前年度 延べ 38 回）



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベント出演。

出演回数：0 回（前年度 5 回）

(2) 貸出

着ぐるみの貸出を行った。貸出回数：2 回（前年度 10 回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：4 件（前年度 7 件）

8. 地域福祉活動

(1) 地区福祉委員会等による小地域福祉活動の支援

① 代表者会議の開催

新型コロナ感染拡大防止のため開催せず、各代表および委員会の巡回訪問を実施した。

② 地区福祉委員の育成

地区福祉委員を対象とした研修プログラムを用意し、委員会毎の開催を呼びかけたが、参加申し込みがなかった。

③ 地区福祉活動広報誌「地区福祉委員会だより」発行（第6号）

新型コロナ感染拡大下における他の委員会の活動や、活動の考え方などを紹介するとともに、全国的なボランティア活動の事例を提供した。



④ 助成金による活動支援

地域福祉の増進を目指し、地区福祉委員会等の活動継続を促進するため各種助成金を交付した。

(ア) 基本助成：11 団体に 220, 000 円

- ・ 地区福祉委員会の事務費等活動費として助成

(イ) 活動助成：12 団体に 366, 536 円

- ・ 各地区独自の活動費として助成

(ウ) あったかふれあい訪問活動助成：9 団体に 705, 683 円

- ・ あったかふれあい訪問活動に係る活動費として助成

(エ) ふれあいサロン活動助成：4 団体に 149, 440 円

- ・ ふれあいサロン活動に係る活動費として助成（共同募金配分事業）

団体	ふれあい訪問活動		ふれあいサロン活動	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数
三木浦地区福祉委員会	1	125	1	6
三木里地区福祉委員会	3	288	-	-
古江地区福祉委員会	4	496	-	-
坂場地区福祉委員会	4	485	-	-
曾根地区福祉委員会	-	-	12	59
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	3	219	7	158

泉地区福祉委員会	3	148	-	-
新田地区福祉委員会	3	326	-	-
なみき地区福祉委員会	3	622	-	-
天満地区福祉委員会	4	236	-	-
いこいの場みさき	-	-	90	450
早田見守り隊	2	67	-	-
合計	30	3,012	110	673



(2) おしゃべりほのぼのサロン

高齢者の生きがいがづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを当会職員とボランティアの協力で実施した。

延べ参加人数実績

(単位：人)

地区 人数	尾鷲	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	41	34	18	34	127
前年度人数	54	65	36	56	211



(3) 老人クラブ友愛活動の支援

尾鷲市老人クラブが取り組む友愛活動（友愛訪問やふれあいサロンなどの活動）に対し、助成支援を行った（共同募金配分事業）。

対象者人数 474 名（前年度 424 名）

助成金額 19 団体 133,000 円

(4) 子育て支援

① 子育てグッズ「無料レンタル」事業

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドを譲り受け、必要とする方への貸し出しを行った。

・貸出件数：18 件（前年度 68 件）

② 子育てグッズ「リサイクル」事業

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

・提供件数：1 件（前年度 8 件）

・子育てめっけもん広場（子育て用品交換会）

子育て用品提供者 17 名 来場者 66 名

③ ひとり親世帯就学応援事業

ひとり親家庭の小学校卒業生に中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した（共同募金配分事業）。

・対象児童 25 名（前年度 29 名）

(5) 療育支援

- ・新型コロナの影響により 30 分の時間短縮を行い 6 月より開始した。
- ・感染対策として大人はマスク等を使用し、換気や消毒、検温を行った。
- ・障がい児や発達の気になる子どもにグループによる療育支援を行った。
- ・未就学児は親子参加を基本とし保護者の孤立を防ぎ相談や交流の機会とした。専門職による専門療育の機会の提供として言語療法士による指導を行った。

参加状況

区分	実人数	延べ人数
尾鷲市	28	343
紀北町	10	117
計	38	460

(6) 福祉教育の推進

① 子ども福祉スクール（共同募金配分事業）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

② 福祉協力校の指定と助成金による支援（共同募金配分事業）

福祉協力校〈小学校 5 校、中学校 2 校、高校 1 校、特別支援学校 1 校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った。

助成金額 8 校 181,533 円

③ 福祉教育プログラムによる福祉体験の実施

福祉協力校の児童・生徒を対象に、総合学習の時間等を活用して福祉に関する授業を実施した。

内 容：福祉保健センターの見学、ユニバーサルデザインについて、車椅子等の体験授業、赤十字活動について

実施校：尾鷲小学校、矢浜小学校、向井小学校、輪内中学校



④ 福祉作品コンクールの開催

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマにした『標語』とその標語に込めた『想い』を募集し、入賞作品を表彰した。

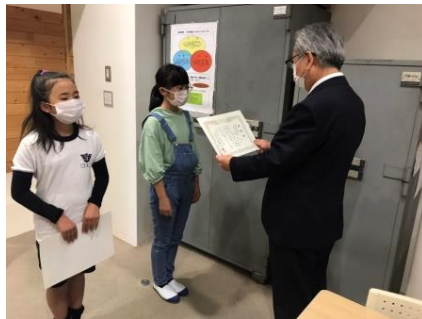
応募総数 585 点

表彰者 小学校低学年の部 3 名

小学校中学年の部 3 名

小学校高学年の部 3 名

中学校の部 3 名



9. ボランティア・市民活動センター事業

(1) ボランティア・市民活動センターの効果的な運営

① 市内ボランティア・市民活動団体への情報提供

・ 尾鷲市ボランティア・市民活動センターだよりの発行（1 回）

② ボランティア相談：13 件

③ ボランティア保険の加入支援

・ 活動保険：加入者数 739 名（うち保険料助成 465 名）

・ 行事用保険：28 行事（延べ 1, 643 名）

④ ボランティア活動助成：9 団体 169, 121 円

・ ボランティア団体の活動支援として助成

(2) 生活支援のしくみづくり

① 生活支援サポーター育成講座

- ・ 生活支援ボランティアの育成講座として「わがらの町の暮らしささえ合い塾」を開催(新型コロナウイルス感染拡大防水のため規模を縮小)

開催日：令和2年9月14日

場 所：尾鷲市中央公民館2階講座室A

参加者：2名

② 買い物支援実験

- ・ 町内に商店がない地区を対象に、住民ボランティアと協働した買い物支援の実験を実施した。

実施地区：曾根町、梶賀町

実施期間：令和3年1月～3月

延べ実施回数：9回

参加者：モニター9名、付添ボランティア7名



(3) 災害ボランティアのしくみづくり

① 災害ボランティアコーディネーターフォローアップ講座

災害ボランティアコーディネーターの資質向上とモチベーションの維持を目的に、フォローアップ講座を開催した。

内 容：コロナ状況下での災害ボランティア活動、水害時の対応

第1回 令和3年3月4日(木) 参加者：20名

場所：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

第2回 令和3年3月5日(金) 参加者：11名

場所：三木里コミュニティセンター2階

講 師：尾鷲市社会福祉協議会 山本雄一

② 災害ボランティアセンター運営訓練

災害ボランティアセンターの運営における従来の課題への対策と、コロナ状況下での感染拡大防止を目的として、社協職員を対象に新しい形式の災害ボランティアセンター運営訓練を開催した。

第1回 令和3年2月16日(火) 参加者：13名

内容：オンライン上での災害ボランティア登録

場所：尾鷲市福祉保健センター3 階講座室
 第2回 令和3年2月18日（火） 参加者：13名
 内容：コロナ状況下での災害ボランティアセンター運営
 場所：尾鷲市福祉保健センター4 階多目的ホール



③ 復旧活動資機材の整備

水害などの災害時の復旧活動の際に使用できるように要綱を改定した。

- 工場扇 3 台
- ダクトファン 1 台
- 水中ポンプ 1 台
- 投光器 2 台

その他、必要に応じた資機材を貸出。



10. 広報・啓発事業

(1) 尾鷲市社会福祉大会の開催（尾鷲市との共催）

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主催および被表彰者、並びに来賓のみの少人数で開催した。

開催日：令和2年11月23日（月・祝）

場 所：尾鷲市中央公民館

参加者：15 名

内 容：第一部 顕彰

尾鷲市市長表彰 10 名

尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 11 名



(2) 広報誌「おわせ社協」の発行

事業の周知と福祉の啓発を目的に、全世帯に向けた広報誌を年間 4 回（5 月・7 月・10 月・3 月）発行した。

11. 社協賛助会員制度

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、文書にて賛助会費の募集を行い地域福祉活動の財源確保に努めた。

（単位：円／件）

	令和 2 年度		令和元年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
賛助会員	538, 000	482	1, 351, 000	1, 178	▲813, 000	▲696
特別会員	265, 000	36	385, 000	46	▲120, 000	▲10
総数	803, 000	518	1, 736, 000	1, 224	▲933, 000	▲706

12. 生活支援体制整備事業（介護保険事業地域支援事業）

高齢者の日常生活上の支援体制の充実・強化、及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図ることを目的に、生活支援コーディネーターを配置し、生活支援活動のコーディネートを行うことともに、地域における話し合いの場づくりを行った。

(1) 生活支援コーディネーターの配置

- ① 第 1 層生活支援コーディネーター 2 名
- ② 第 2 層生活支援コーディネーター（兼務）

生活支援コーディネーターの活動

活動内容	延べ回数
地域のアセスメント	93
相談対応	79
連絡・調整	38
地域内での協議	42
啓発	16
人材育成	7
その他	50
計	328



(2) 周知・啓発

① 地域支え合い講演会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

② 活動発信「わごころ通信」の発行（号外・10月・3月）

全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。

- ・ 号外：生活支援コーディネーターの交代、生活支援コーディネーターの役割について
- ・ 第3号：コロナ下における活動、ラジオ体操の取り組み、地区福祉委員会活動の紹介
- ・ 第4号：わごころ会議の紹介、三木里地区福祉委員会・九鬼生活支援ネットワークの活動紹介、生活支援コーディネーターの活動振り返り

(3) 生活支援に関する協議体の設置・運営

① わごころ会議の開催

日常生活圏域となる第二層（旧町内・周辺地区）を対象に、尾鷲北、尾鷲南、周辺地区の3グループに分かれ、生活支援に関する話し合いの場を持った。

- ・ 尾鷲北地区わごころ会議
 - 第1回 開催日：令和2年10月13日
内 容：ゴミ出しに関する助け合いのしくみについて
参加者：9名
 - 第2回 開催日：令和2年11月27日
内 容：買い物支援移管する助け合いのしくみについて
参加者：7名
- ・ 尾鷲南地区わごころ会議
 - 第1回 開催日：令和2年10月14日
内 容：ゴミ出しに関する助け合いのしくみについて
参加者：7名
 - 第2回 開催日：令和2年11月26日
内 容：買い物支援移管する助け合いのしくみについて
参加者：14名

- ・ 周辺地区わごころ会議
 第1回 開催日：令和2年10月15日
 内 容：ゴミ出しに関する助け合いのしくみについて
 参加者：7名
 第2回 開催日：令和2年11月27日
 内 容：買い物支援移管する助け合いのしくみについて
 参加者：7名



② 地域支え合い応援会議の開催

市全体の協議体として生活支援体制整備協議会（地域支え合い応援隊）を組織し、生活支援体制整備の現状認識や今後の方向性について協議。

- ・ 第1回 開催日：令和2年10月30日
 内 容：生活支援体制整備協議会の方針・目標づくり
- ・ 第2回 開催日：令和3年2月19日
 内 容：わごころ会議の進捗報告及び買い物支援について

13. 尾鷲市共同募金委員会運営の支援

(1) 赤い羽根共同募金運動の実施

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金活動を実施した。

① 一般募金運動（期間：令和2年10月1日から令和3年3月31日）

募金実績

（単位：円）

	令和2年度	令和元年度	前年比較
目標額	2,607,100	2,596,200	10,900
実績額	2,336,056	2,632,242	▲296,186
達成率	89.60%	101.39%	-

募金種別による内訳

(単位：円／件)

	令和２年度		令和元年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	1,306,533	3,325	1,441,303	3,390	▲134,770	▲65
法人募金	754,640	108	620,000	102	134,640	6
街頭募金	0	0	89,356	5	▲89,356	▲5
学校募金	45,120	5	194,169	10	▲149,049	▲5
職域募金	148,234	26	138,532	22	9,702	4
イベント募金	0	0	62,655	7	▲62,655	▲7
個人募金	7,500	2	33,015	4	▲25,515	▲2
その他	74,029	40	53,212	22	20,817	18
合 計	2,336,056	3,506	2,632,242	3,562	▲296,186	▲56

14. 日本赤十字社三重県支部尾鷲市地区事務局

(1) 社資増強運動（日赤募金）の実施

令和２年７月１日より１ヵ月間、日赤三重県支部尾鷲市地区として日赤奉仕団（尾鷲市婦人の会連絡協議会）、自治会等の協力を得て、募金運動を実施した。

募金実績

(単位：円)

	令和２年度	令和元年度	前年比較
目標額	2,629,000 円	2,691,000 円	▲62,000 円
実績額	1,585,170 円	2,247,733 円	▲662,563 円
達成率	60.2%	83.5%	-

(2) 災害救援物資の配布（日本赤十字社救援事業）

令和２年度に市内で火災が２件発生した。その２世帯に対し、以下の通り配布した。

救急セット ２個 毛布 １枚 タオルケット ２枚



Ⅱ 生活支援課

生活支援係

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくりを進めていく」という本会理念のもと、各課・関係機関と連携し、相談者に寄り添い、相談に対応した。

(ア) 相談実績

相談件数：126 件（相談者の属性や内容に重複あり）

（単位：件）

（単位：件）

属性	令和2年度	令和元年度	相談内容	令和2年度	令和元年度
困窮者	124	53	自立生活に関すること	17	12
高齢者	1	5	家計管理に関すること	8	11
障がい者	0	5	貸付に関すること	99	20
その他	1	4	借金・滞納に関すること	2	12
計	126	67	成年後見制度に関すること	1	2
			日常生活自立支援事業の利用	5	4
			消費生活に関すること	0	1
			虐待・権利侵害に関すること	3	2
			生活支援に関すること	4	10
			地域・人間関係に関すること	1	9
			仕事に関すること	7	6
			引きこもりに関すること	0	3
			その他	0	7
			計	147	99

2. 生活再生相談事業

(1) 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

生活に困り不安を抱えている方から相談を受け、どのような支援が必要か一緒に考え、生活困窮状態から脱却するための計画的な支援を行った。

① 相談対応

(単位：件)

	令和2年度	令和元年度
相談件数	135	64
支援計画策定	35	26
延べ対応 (支援申込み前含む)	1205	650

(単位：件)

対応内容	令和2年度	令和元年度
電話相談	520	290
訪問・同行支援	237	125
面談	260	166
所内会議	120	35
支援調整会議（プラン策定・評価）	62	22
その他関係機関との会議	0	1
関係機関との照会・協議	1	8
その他	5	3
計	1,205	650

② 支援体制の構築

(ア) 周知啓発活動

- 関係機関窓口でのチラシ・ウェットティッシュの設置
尾鷲市（福祉保健課、税務課、市民サービス課、水道部、
各コミュニティセンター、尾鷲小学校、尾鷲市社会福祉協議会）

(イ) 関係機関との会議

- 尾鷲公共職業安定所との連絡会議
新型コロナウイルス感染対策のため書面により実施した。

(ウ) 支援調整会議（開催回数：12回）

(2) 家計改善支援事業（市受託事業）

生活困窮者のうち、家計管理に問題がある方を対象に、家計状況の見える化、そして生活再建プランを作成し、相談者自ら家計を管理できるよう経済的自立を支援した。

① 相談対応

(単位：件)

	令和2年度	令和元年度
相談件数	101	39
支援計画策定	13	15

② 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位：件)

	令和2年度	令和元年度
税金の滞納	7	9
医療費の滞納	4	5
公共料金の滞納	5	8
債務(銀行や消費者金融など)	7	12
家計管理の問題	11	14
低所得	8	9
計	42	57

(3) 被保護者就労支援事業(市受託事業)

生活保護受給者を対象に、就労自立に向けた支援を行った。

① 相談対応

(単位：件)

	令和2年度	令和元年度
相談件数	1	6
延べ対応	31	140

② 対応結果

(単位：件)

	令和2年度	令和元年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
福祉的就労	0	0
計	0	0

(ア) 関係機関との会議

- ・ 令和2年度稼働能力判定会議

開催日：令和2年7月28日

出席：市福祉保健課・社協から5名が出席

- ・ 令和２年度被保護者就労支援打合せ会議
新型コロナウイルス感染対策のため書面により実施
ハローワーク尾鷲、尾鷲市、尾鷲市社会福祉協議会
- ・ 令和２年度紀北地域協議会就労部会
8/24 令和２年度第１回会議（場所：紀北町社会福祉協議会本所）
2/10 令和２年度第２回会議（場所：尾鷲市立中央公民館）
出席者：ハローワーク尾鷲、東紀州くろしお学園おわせ分校、
やきやまふぁーむ、ひのきの会、尾鷲市福祉保健課、紀
北町福祉保健課、尾鷲市社会福祉協議会、障がい者総合
相談支援センター結、障がい者就労・生活支援センター
結

3. 生活資金貸付事業

- (1) 生活福祉資金貸付事業（実施主体：三重県社会福祉協議会）の貸付状況
新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により生活資金に悩む
世帯を対象とした特例貸付を実施した結果、新規貸付件数が大幅に増加した。

① 令和２年度中の完済件数

（単位：件）

資金種類		令和２年度	令和元年度
福祉資金	福祉費	1	1
	緊急小口資金	1	0
教育支援資金		2	0
計		4	1

② 令和２年度中の新規貸付件数

（単位：件）

資金種類		令和２年度	令和元年度
福祉資金	緊急小口資金	1	0
教育支援資金		0	1
新型コロナ	緊急小口資金	30	0
特例貸付	総合支援資金	35	0
計		66	1

③ 令和２年度末現在の貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和２年度	令和元年度
福祉資金	福祉費	0	1
	福祉費(住宅)	1	1
	障がい者自動車購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	3	3
教育支援資金		11	13
新型コロナウイルス 特例貸付	緊急小口資金	30	0
	総合支援資金	35	0
計		82	20

(2) 福祉金庫緊急貸付事業（本会独自事業）の貸付状況

(単位：件)

種類	令和２年度	令和元年度
完済件数	6	14
新規貸付件数	4	13
償還免除件数	10	0

① 令和２年度末の貸付件数

(単位：件)

償還の状況	令和２年度	令和元年度
令和２年度末貸付件数	8	20
定期的に返済している方	3	3
不定期であるが、返済をしている方	0	0
今年度全く返済実績のない方	5	16
償還期日未到来	0	1

(3) 緊急食料等支給事業

(ア) 緊急的に支援が必要な困窮者世帯に対する食料等支給

- ・ 認定 NP0 法人セカンドハーベスト名古屋提供の食糧支援件数 22 件
- ・ 本会独自事業および生活協同組合コープみえ、カーブスイオン尾鷲店からの食料寄付を活用した支援件数 84 件

(イ) 食料寄付の受付

- ・ 生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品(精米・食品など)の無償提供を受けた。
- ・ カーブスイオンおわせ店が、会員 52 名から集めた未開封食料の食料寄付を受け付けた。



4. 権利擁護事業

(4) 日常生活自立支援事業

尾鷲市を対象として、地域包括支援センター、障がい者総合相談支援センター結及び関係機関と連携を図り、積極的な対応を心掛けた。また、利用者との信頼関係の構築を継続し、安心・信頼できる適切な金銭管理・福祉サービス利用援助・書類等預かりサービスを実施した。

令和２年度実績

(単位：件)

		認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和元年度
相談		158	109	405	117	789	629
契約	新規	2	2	1	0	5	2
	解約	2	0	0	1	3	2
	継続	7	4	7	2	20	18

(5) 法人後見・サポート事業

① 制度の利用に関する相談 １件（うち申立て支援０件）

② 受任件数 １件

Ⅲ 高齢者支援課

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

- (ア) 高齢者の身近な相談窓口として、本人・家族の抱える課題に対して、利用できる制度やサービスを助言し、関係機関の紹介を行った。
- (イ) 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職がチームとなり継続的に相談支援を行った。自宅への訪問や関係者からの情報提供を受け、本人の課題に対する支援計画を策定し、必要な支援制度の紹介やサービス提供に繋がった。また、継続的に本人の状況を確認するとともに策定した支援計画の評価を行った。

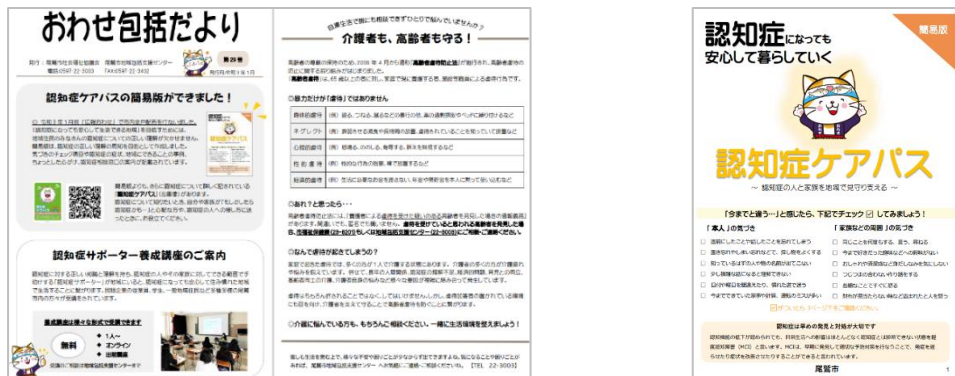
(単位：件)

内 訳	介護・日常生活	サービス利用	医 療	所 得	苦 情	権利擁護	その他	合 計
件 数	445	150	27	12	3	14	6	657

(前年度相談受付件数： 730 件)

② 地域包括支援センターの周知

- 「社協だより」への掲載 1 回 前年度 2 回
- 「包括だより」の発行 2 回 前年度 2 回
- 「社協ホームページ」の更新及び認知症ケアパス（簡易版）の掲載



③ 輪内ランチの運営

輪内高齢者サービスセンター内に設置している輪内ランチにおいて、地域の高齢者の福祉・介護の総合相談窓口として、支援制度の紹介や情報提供を行った。

(2) 権利擁護業務

① 高齢者虐待への対応・防止

(ア) 高齢者虐待相談窓口の設置

尾鷲市福祉保健課と連携し、自宅訪問や関係者からの情報収集を基にして、虐待の有無や緊急性を判断し、虐待事例の解消に向けた対応を行った。

(イ) 高齢者虐待相談の受理

受理件数 7 件（うち認定 3 件、前年度認定件数 5 件）

（単位：件）

内 訳	身体的	心理的	経済的	性的	介護放棄
件 数	6	4	2	0	1

② 福祉制度の活用

(ア) 日常生活自立支援事業の活用

日常生活自立支援事業の利用調整（相談斡旋を含む）を行った。

相談件数 1 件

(イ) 成年後見制度の活用

成年後見制度の利用援助（情報提供、申立支援、斡旋等）を行った。

相談件数 1 2 件 申立支援 3 件

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

① 地域ケア会議・地域包括ケア会議の開催

地域ケア会議

個別困難事例を関係者が検討することで、課題の共有と支援の方向性を確認し、ケアマネジメント支援を協働で行った。また、地域課題の把握に繋げた。

（5 件 前年度 10 件）

② 居宅介護支援事業所連絡会議の開催

居宅介護支援事業所連絡会議において研修会等を開催しケアマネジメント技術を高め、関係機関と連携して高齢者を支援する取り組みを行った。

居宅支援事業所連絡会議

（単位：人）

	開催日	参加人数	内 容
第 1 回	7 月 14 日	26	「高齢者支援についての歯科治療・口腔について」 講師：西村 寿都子 歯科衛生士
第 2 回	11 月 12 日	35	「日常生活自立支援事業についての講話・事例検」 講師：世古 弘子 日常生活自立事業専門員
合計		61	

（前年度開催回数：3 回）

第3回に開催予定の尾鷲市紀北町合同事例検討会は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策により中止となった。



(第1回研修会)



(第2回研修会)

③ 居宅介護支援事業所ケアマネジャー支援

市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に対応した。

令和2年度 85件 前年度 88件

(4) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援

要支援者及び事業対象者が介護状態となることを予防し、または維持するために適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行った。

① 要支援者への介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

介護保険を申請して要支援1、2と認定された方。

② 介護予防・生活支援サービス事業対象者への介護予防ケアマネジメント

事業に参加を希望された65歳以上の方で尾鷲市、地域包括支援センター等が実施した基本チェックリストにより総合事業の対象となった方。

予防プラン作成および給付管理数

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
介護予防 支援	自機関	31	25	27	23	23	25	
	委託	31	29	28	26	26	28	
	合計	62	54	55	49	49	53	
介護予防 ケアマネ ジメント	自機関	76	80	81	81	72	85	
	委託	40	40	45	47	48	47	
	合計	116	120	126	128	120	132	
総合計		178	174	181	177	169	185	

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防 支援	自機関	23	23	23	25	24	26	298
	委託	29	28	30	29	30	31	345
	合計	52	51	53	54	54	57	643
介護予防 ケアマネ ジメント	自機関	87	82	87	89	93	93	1006
	委託	43	46	45	46	42	46	535
	合計	130	128	132	135	135	139	1541
総合計		182	179	185	189	189	196	2184

(前年度合計：2,165件)

(5) 認知症施策の推進

① 認知症初期集中支援チームの運営

(ア) 支援チームに関する普及活動

地域住民や関係機関・団体に対し、支援チームの役割や機能について広報活動や協力依頼を行った。

(イ) 認知症初期集中支援チーム員会議の開催

認知症専門医や医療・福祉の専門職がチームとなり、認知症が疑われる人や認知症の人を早期に発見し、家族の同意のもと包括的・集中的に適切なケアを行った。

認知症に関する相談は58件有り、相談の中でも特に緊急性が高いもの、認知症初期集中支援依頼の同意が得られた方を事業の対象とした。

初期集中支援チーム員会議による支援 6件（うち前年度から継続4件）

初期集中支援チーム員会議の開催 5回

（うち1回は新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為中止となり、専門医クリニックでチーム員会議・中間報告を実施した。）

訪問回数 22回 調整回数 58回

その他、初期集中支援チーム員が相談対応し、地域包括支援センターでの緊急対応の調整に移行した方 14件

(ウ) 認知症初期集中検討委員会の開催（年1回）

認知症初期集中支援チームの業務報告・ケース活動状況、認知症地域支援推進員の取り組み状況について報告を行った。

② 認知症地域支援推進員の設置

(ア) 認知症ケアパス簡易版の作成

本人や家族が認知症について正しい知識を持ち、認知症の方への接し方や、受けることが出来るサービスなどを取りまとめた「認知症ケアパス」の簡易版を作成し、全戸配布を行うことで普及啓発を行った。

(イ) 認知症カフェ（こもればカフェ）の運営

認知症の方やその家族、医療や介護の専門職、地域住民などが気軽に集う『認知症カフェ』を新型コロナウイルス感染症蔓延防止のために中止し、地域で認知症の方を支えるために事例を用いた懇談会『こもれば集会』を開催した。

(単位：人)

	開催日	参加人数	場 所
こもれば集会	11 月 11 日	14	三木里コミュニティーセンター
合計		14	

(ウ) オンライン体験会の実施

地域の高齢者に協力を得て、オンラインを利用した意思伝達の可能性を検証した。画面を通じて遠方にいる高齢者同士が会話を楽しむことが出来た。

(エ) 認知症サポーター養成講座

(単位：人)

	開催日	参加人数	対象者
第 1 回	11 月 13 日	14	尾鷲高校家庭看護コース学生・教員
第 2 回	12 月 15 日	1	地域住民希望者
合計		15	

(前年度参加人数：223 名)

第 3 回に開催予定の尾鷲中学校認知症サポーター養成講座は新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策のため中止となった。

新型コロナ禍の中でも、ZOOM を使用したオンライン受講が出来るように環境整備を行った。



(第 1 回養成講座)

(オ) 尾鷲市高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力

徘徊や行方不明になる恐れのある認知症高齢者の家族に対して、尾鷲市が実施する高齢者等 SOS ネットワーク事業への登録を促した。行方不明者が発生した場合は、尾鷲市と連携し、協力団体とともに行方不明者捜索に協力した。

(カ) 出前講座の開催

(単位：人)

開催日	内 容	参加人数	依頼先
9 月 18 日	介護予防の講話・体操	8	向井コミュニティーセンター
9 月 18 日	介護予防の講話・体操	5	大曽根コミュニティーセンター
合計		13	

(前年度開催回数：3 回)



(大曽根コミュニティーセンター)



(向井コミュニティーセンター)

2. 任意事業

(1) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神的負担の軽減と介護者・介護経験者同士の情報の交換を目的とした交流会を開催した。

① 介護者の会の開催

(単位：人)

	開催日	参加人数	内 容
第 1 回	12 月 14 日	8	おしゃべり会（尾鷲市福祉保健センター）
第 2 回	3 月 25 日	7	おしゃべり会（三重県立熊野古道センター）
合計		15	

(前年度参加人数：32 名)



(2) 福祉用具・住宅改修支援事業

① 福祉用具の利用支援

福祉用具の利用についての助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 20 名 前年度 12 名

② 住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行った。

住宅改修利用支援者 20 名 前年度 42 名

3. その他

(1) 各種研修会への参加

- ・ 主任介護支援専門員研修への参加
- ・ 地域包括支援センター職員初任者・専門職研修

(2) 各種会議への参加

- ・ 地域密着型サービス運営推進会議
 - 通所介護事業所運営推進会議
 - グループホーム運営推進会議
 - 小規模特別養護老人ホーム運営推進会議
- ・ 地域包括支援センター運営協議会（2回）
- ・ 三重県地域医療構想調整会議
- ・ 広域連合介護保険事業計画策定委員会
- ・ 尾鷲市地域精神保健福祉危機対応ネットワーク会議（1回）
- ・ 尾鷲市高齢者保健福祉計画策定委員会
- ・ 養護老人ホーム聖光園入所判定委員会
- ・ 在宅医療介護連携推進作業部会・幹事会
- ・ 認知症施策作業部会
- ・ 介護予防・日常生活支援総合事業作業部会
- ・ 生活支援体制整備事業作業部会

Ⅳ 障がい支援課

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 相談支援事業

住みなれた地域で安心した暮らしを継続し、障がいの有無にかかわらず互いに人格や個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行った。また、地域での生活を継続するために、障害福祉サービスや地域支援事業などをライフステージに応じて利用できるよう支援を行った。

令和2年度の相談実人数は242人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多い。自分の希望する暮らしや意向を実現し住みなれた地域での生活を続けるため、必要なサービスについて知りたいと思う相談が多かった。就労に関する相談は就業・生活支援センターが周知されたことで、就労相談は直接、就業・生活支援センターに繋がることが多くなっており、地域生活支援事業での相談は減っている。しかし、すぐに就労に結びつかないケースについては、市町委託の基幹型支援センターと就業・生活支援センターそれぞれの担当が共同して支援を行ってきた。令和2年度の社会参加・余暇活動に関する相談支援は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、件数が減少しており、地域での生活を継続していく中で、楽しみややりがいを持って生活の幅を広げる支援は感染拡大防止の影響で少なくなった。

ここ数年で圏域内に障がい者グループホーム(障害者共同生活援助サービス)が開設された事で、住み慣れた地域を離れることなく生活を送れ、地元の日中活動にそのまま継続して参加する事も出来る状況である。また、将来を見据えてグループホームを定期的に体験利用をする方もおり、保護者の方にも親亡き後のビジョンを持ってもらえつつある。今後もグループホームへの支援を行い、地域での協力体制を強化していきたい。

また、金銭管理が上手くできず生活に支障が生じる相談ケースには、日常生活自立支援事業や生活相談事業と連携しながら支援を行った。独居の方や家族の協力が得られない方も増加しており、今後の権利擁護支援の体制も課題となる。また、不安の解消や情緒安定に関する支援では、特に精神障がい者の方

については、地域資源が少ない地域であるので、支援センターでの電話相談が安心してもらえる有効な支援方法の一つとなっている。

① 障がい別 年間相談者実数（児・者）（単位：人）

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
尾鷲市	127	18	1	64	39	2	0	3
紀北町	115	7	0	68	34	2	0	4
計	242	25	1	132	73	4	0	7

② 支援方法別 相談延べ件数（単位：件）

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	関係 機関	個別支援 会議	その他	計
尾鷲市	1. 095	402	82	1. 197	14	547	101	55	3. 493
紀北町	1. 037	135	57	958	0	233	108	20	2. 548
計	2. 132	537	139	2. 155	14	780	209	75	6. 041

③ 支援内容（延べ件数）（単位：件）

内容	延べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	3. 568	1. 940	1. 628
障がい者症状の理解に関する支援	189	115	74
健康・医療に関する支援	385	268	117
不安の解消・情緒安定に関する支援	384	249	135
保育・教育に関する支援	92	52	40
家族関係・人間関係に関する支援	175	144	31
家計・経済に関する支援	256	141	115
生活技術に関する支援	71	59	12
就労に関する支援	126	73	53
社会参加・余暇活動に関する支援	593	360	233
権利擁護に関する支援	31	9	22
その他	171	83	88
計	6. 041	3. 493	2. 548



(2) 紀北地域協議会の運営支援

第4期紀北地域障がい者福祉計画及び第5期尾鷲市・紀北町障がい福祉計画に基づき取り組みを行った。地域生活支援拠点部会、こころ部会、就労部会、それぞれ年間テーマを決め活動を行ったが、コロナ禍の影響でなかなか事業所が集まる活動は実施できず、予定した会議は実施できなかったが、次年度に協議を継続していく道筋をつけた。

令和2年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
地域生活支援 拠点・こころ部 会	テーマ：「紀北地域における地域生活支援拠点の整備に向けて」 ○地域生活支援拠点とは障がい者の重度化・高齢化を見据えて障がい者の生活を地域全体で支える為の、体制を整備して行くこと。 ○拠点整備に向けて必要な5つの機能には「相談機能」「緊急時の受入れ・対応」「体験の機会・場の提供」「地域の体制作り」「専門的人材の確保・養成」がある。 ○前年度に調査した紀北地域の社会資源の結果を報告。それを基に地域にある物・ない物の現状把握を行った。 ○令和2年度はこころ部会と合同で開催した。こころ部会のテーマが地域移行の推進に伴う「生活の場の確保」、「相談支援体制の活用とサービスの確保」である為、共通する部分が多いので合同で開催した。今後も両部会で情報の共有・課題を共有し、要綱を設置し事業所に依頼していく方向性である。
就労部会	テーマ：「福祉的就労支援事業所から一般就労へのステップアップや新しい就労機会の創出について」 ○コロナ禍における福祉就労支援事業所の現状について話し合う。各事業所ともコロナの影響を受けて工賃支給に欠かせない仕事の確保が難しくなっている。 ○部会に県農林水産事務所にも参加してもらい、水福連携と林福連携について協議した。水福連携では作業内容などで現状は事業化していくことは難しい状況であった。一方、林福連携では、企業が作業工程で福祉事業所との連携を模索しており、部会後に企業主催の研修会に事業所職員が参加し、自作業所で取組が可能かどうか協議した。その結果、幾つかの作業所が仕事として取り組んでいきたい意向があり、令和3年度の継続協議となる。 ○当初の計画では障がい者を雇用している企業の話聞いて、職

	場を訪問し、仕事風景の視察を行う予定であったが、コロナ禍の影響で企業訪問は自粛。代わりに障がい者雇用に関する必要な制度の啓発・研修会を実施した。
--	--

(3) ピアサポーター活動支援

地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や色々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市林町会館と紀北町東長島公民館で、月2回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」の活動を行った。通常サロンでは参加者同士で話し合いをし、メニューを決め、協力・分担して昼食作りを行っていたが、コロナ禍の影響で飲食を伴う活動は中止とし、趣味余暇活動の幅を広げる創作活動を行った。活動時間も以前より短縮した。延べ人数で尾鷲市25人、紀北町9人、合計で34人の参加があった。

また尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援については、令和2年度は会員が集まっての総会、研修会、外出行事は開催出来なかった。会員宅を訪問し健康を確認すると共に、コロナ感染予防対策品として、マスクと携帯用消毒液の配布を行った。



2. 障害者就業・生活支援センター事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業では、令和2年度は早々から緊急事態宣言が発令され、企業訪問・職場実習など思うように行かず、様々な行事も計画通りに開催することは出来なかった。年度後半にはオンラインでの相談体制も整えたが、利用者支援の場面に関しては自宅の通信環境やパソコンが使えない等などの制限があった。

これまで三重障害者職業センターとの関連は会議や研修会等の係わりが主

で、直接の利用者支援、事業主支援で協同して関わることは少なかった。そこで、今年度は改めて協力体制構築を目指した。具体的には利用者支援として職業評価を依頼し、その結果を基に特性を理解してもらい、そこから企業での職場実習を経て就職まで繋がったケースがあった。また、事業主支援では三重障害者職業センターと研修会を共催し、ジョブコーチの制度の理解や企業・事業所間での障がい者雇用に関する意見交換を行った。令和2年度はコロナ禍の影響で外部からの人の出入りに制限のかかる企業もあり、職場訪問・実習に繋がる事が難しかった。そのような中であったが、企業との連携を途切れず行った結果、一般就労9人、職場実習21件の実績、定着率は90.9%となった。

在職者を対象とした交流会、中小企業障がい担当者支援、ピアサポート活動支援を3回開催し、就労に必要な心構えや働き続けるための支援、担当者の方への支援・活用制度等についての研修を実施した。

就労登録者

(単位：人)

登録者数	新規 12	継続 170	合計 182
内訳 身体障がい	1	29	30
知的障がい	4	83	87
精神障がい	7	53	60
その他	0	5	5

令和2年度の就労実績

(単位：人)

障がい種別 1週間の 勤務時間数	身体	知的	精神	その他	計
一般（30時間以上）	0	0	4	0	4
20時間以上 30時間未満	0	1	3	0	4
20時間未満	0	0	1	0	1
計	0	1	8	0	9

市町別一般就労実績

(単位：人)

区分	合計	(内訳)			
		身体	知的	精神	その他（発達）
内 尾鷲市	6	0	0	6	0
訳 紀北町	3	0	1	2	0
圏域合計	9	0	1	8	0

相談支援件数（内容別）

(単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	26	312	272	0	610
職場定着の為の相談支援	36	144	197	0	377
日常生活に関する相談支援	12	81	72	0	165
就業と生活に関する相談支援	0	1	3	0	4
計	74	538	544	0	1,156

相談支援件数（手段別）

(単位：件)

センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）	256
電話・ファックス・E-mail 等	337
職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）	182
家庭・入所施設への訪問	40
その他（ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等）	341
計	1,156

令和2年度 在職者交流会・中小企業支援・ピアサポート活動 研修会

(単位：人)

開催日	内容	参加人数
令和2年7月11日	感染予防に関して 「うがい・手洗いの基本について」	7
令和2年9月30日	介護事業所を担当職員 「介護事業所におけるジョブコーチ支援」	10
令和3年3月13日	暮らしを支える税金を学ぶ 「税の勉強会」	4



3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏

開催 8 回 延べ参加人数 118 人（尾鷲市 66 人 紀北町 52 人）

(2) 視覚障がい者歩行訓練

視覚障がい者の方に対して歩行訓練や福祉機器・点字の指導を行う。

開催 12 回 視覚障がい者 2 人 延べ参加人数 23 人

(3) 点字声の広報発行事業

視覚障がい者の方に対して音訳ボランティアによる広報おわせ録音・発送。

実施 12 回 視覚障がい者 3 人 延べ配布人数 36 人

(4) 音楽教室

コロナ感染防止の為 開催中止

（合唱・楽器演奏・リズム遊びを行う活動である為）

(5) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

コロナ感染防止の為 開催中止

（障がい者・小学生・ボランティアが集まっての交流行事である為）

(6) その他

紀北町生活交流会・ふれあいスポーツ大会、くろしお学園おわせ分校学習発表会・運動会、紀北作業所夕涼み会は今年度は開催中止等で参加出来ず。



4. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。意思決定支援の視点を持ち、ご本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行う。しかし令和2年度はコロナ禍の影響で面会制限もあり、ご本人にお会いする事が出来ないケースも多かった。新規の事業所見学・体験利用が出来なかったりする事もあり、精神科病院からの退院に向けてのカンファレンスを実施出来なかったり、リモートを活用し実施したり等、サービス調整が難しいと感じた年であった。

特定相談支援 障害児相談支援 (単位：件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	99	289
紀北町	79	247
圏域外	2	13
計	180	549

支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	841	143	22	574	201	1,781
紀北町	814	28	35	455	102	1,434
計	1,655	171	57	1,029	303	3,215

V 居宅介護支援課

居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、居宅での介護サービスやその他の福祉サービス、保健医療サービスが適切に利用できるよう、利用者自身の立場でその有する能力に応じて、自立した生活を送るための公正中立な支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員 5 名 介護支援専門員 2 名

2. 業務内容

管理者を中心とした組織体制により、でスムーズな事業運営を行う。

1. 利用者や家族の在宅における生活意向を考慮したケアプランを作成
2. 利用者、サービス事業所との連絡調整
3. 利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類や特定のサービス事業所に偏ることのないよう公平、中立の立場を保つ
4. サービス担当者会議の開催
5. 多職種との連携

3. 受託事業

1. ケアプラン事業への参加（紀北広域連合主催）
（新型コロナ感染予防対策により、令和 2 年度は中止）
2. 介護保険要介護認定調査
市外、県外保険者より委託を受け、介護認定調査を行った（5 件）

4. 居宅サービス計画依頼実績

（単位：人）

	令和 2 年度	令和元年度
居宅新規	62	96
居宅終了	68	55
※内訳（死亡）	20	28
（入所）	25	20
（移動）	23	7
予防給付 新規	1	0

5. 月別請求額

◇居宅介護

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	185	178	175	178	177	174
収入額	2,893,570	2,790,080	2,752,190	2,813,560	2,781,330	2,742,460

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
189	187	188	171	173	192	2,167
2,984,650	2,924,050	2,943,760	2,665,270	2,704,430	2,971,210	33,966,560

(前年度) 利用者人数 2,132 人 収入額 33,594 千円

◇介護予防支援費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	3	3	3	3	3	5
収入額	12,900	12,900	12,900	12,900	12,900	26,550

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	5	5	5	5	5	50
21,550	21,550	21,550	21,550	21,550	21,550	220,350

(前年度) 利用者人数 45 人 収入額 198 千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	5	3	4	3	3	3
収入額	21,550	12,930	17,240	12,930	12,930	12,930

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	3	2	2	2	2	35
12,930	12,930	8,620	8,620	8,620	8,620	150,850

(前年度) 利用者人数 65 人 収入額 284 千円

6. ケアマネジメントの質の向上を図る

①週1回 居宅事務所内でのミーティングを実施

- ・基本スキルの再確認
- ・サービス提供にあたっての留意事項
- ・困難事例ケース検討会

②居宅介護支援連絡会へ参加し、ケアマネージャーとしての意識向上、援助技術のスキルアップを行った。

VI 訪問介護事業課

訪問介護事業所

ホームヘルパーが自宅を訪問し、「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応えられるよう、日常生活上必要な支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

介護等が必要な方を対象に、ホームヘルパーが自宅を訪問し身体介護や生活援助のサービスを提供した。要支援者の利用人数は減少したが、要介護者の利用人数は増加したため、全体（要支援者及び要介護者）での収入額は増加した。

(1) サービス内容

- 身体介護：食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換
その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	98	96	95	99	103	95
収入額	4,069,440	4,055,210	3,561,090	4,212,110	4,192,490	4,053,240

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
103	98	105	100	92	115	1,199
4,068,130	3,546,950	3,932,420	3,315,570	3,053,020	4,147,960	46,207,630

(前年度) 利用者人数 1,134 人 収入額 45,914 千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	16	38	25	23	21	22
収入額	155,890	497,310	314,520	301,430	265,860	291,680

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
21	24	26	25	25	26	292
296,090	299,740	368,740	334,310	331,380	361,200	3,818,150

(前年度) 利用者人数 301 人 収入額 3,973 千円

2. 障害者総合支援事業

障害福祉サービスの提供を障害者総合支援法に基づき行った。居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会参加を目的とした行事や外出介助等のサービスが少なくなり、利用人数、収入ともに減少した。

◇月別単位数（実績月）

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	30	28	31	31	32	30
収入額	1,230,350	1,147,670	1,235,040	1,252,970	1,189,110	1,158,520

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
33	32	35	32	33	35	382
1,286,160	1,253,640	1,327,820	1,234,090	1,271,300	1,383,130	14,969,800

（前年度） 利用者人数 456 人 収入額 16,523 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」（保険外サービス）と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を介護保険外事業の一環として行った。またケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	13	15	18	17	16	18
収入額	36,400	37,900	43,500	55,000	40,600	38,400

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
21	18	22	18	14	21	211
68,800	66,100	65,100	45,600	54,900	53,300	605,600

（前年度） 利用者人数 171 人 収入額 589 千円

◇運行利用料月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	78	73	82	80	85	85
収入額	213,750	193,640	194,000	215,640	208,350	230,650

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
86	87	88	86	78	95	1,003
243,950	215,900	223,800	188,000	175,650	235,890	2,539,220

(前年度) 利用者人数 1,040 人 収入額 2,792 千円

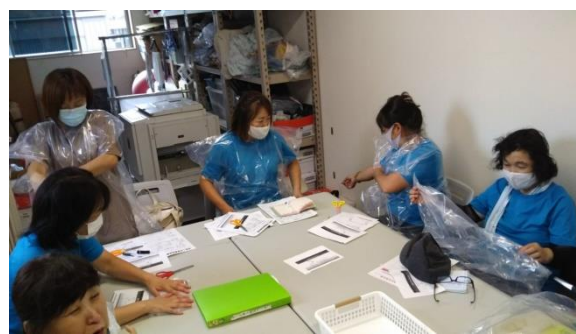
4. 令和2年度の重点的な取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策

「ウイルスを持ち込まない、ウイルスを持ち出さない」を合言葉に、動画による研修会やマニュアル作り、感染防止対策品不足のおりには、自分たちで工夫して作成するなど様々な対策を行った。



感染対策研修会



ゴミ袋を利用した予防衣作成

(2) 熱中症予防対策

猛暑を乗り切るため、夏用マスク作りや塩タレットの配布などを行った。



ハンカチを利用した夏用マスク作り



塩タレット等配布物準備の様子

(3) 各チーム必要に応じた自主的な研修・研究

ヒヤリハットから必要性を感じた研修や介護技術の復習等サービス提供責任者を中心に各チームで研修や研究を行った。



ベッド上での洗髪復習会



携帯用酸素ポンベの使用方法研修

VII 訪問入浴事業課

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

市内唯一の訪問入浴事業所として、看護師、介護職員、運転手がチームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

新規利用はあるも、自宅での介護が困難になり施設入所される等、短期利用が多かった為、収入が減少した。

（１）サービス内容

- ① 看護師による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



（２）訪問入浴の利点

- ① 看護師を含む３人での手厚い入浴介護
- ② 寝た状態で入浴が出来るため、身体的負担が少ない
- ③ 徹底した衛生管理
- ④ 期待できるリハビリ効果
- ⑤ 入浴により褥瘡の治癒を促す

（３）利用者ニーズ

- ① 利用者、家族が在宅での生活を望んでいる。
- ② 身体的負担からデイサービスの利用が困難である。
- ③ 高台に住居があり、浴室の形状など生活環境に課題を抱えている。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	7	10	8	8	7
収入額	650,320	611,260	637,860	730,860	597,970	556,770

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	6	9	8	6	7	124
517,570	491,670	478,380	438,530	385,360	491,670	6,588,220

（前年度） 利用者人数 124人 収入額 8,592千円

VIII 尾鷲通所介護事業課

尾鷲通所介護事業課 (デイサービスセンターいきいき)

◎地域密着型通所介護・総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。半日ならではの特色を生かし、短時間で楽しめるデイサービスとしての役割を果たせるよう努力した。

サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
 - ② 脳トレ (パワーポイント使用し、トンチ問題や虫食い問題等全 100 種類以上)
 - ③ 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション
(呼吸体操・ストレッチ・タオル体操・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等)
 - ④ 身体の介助・支援 (移動介助・見守りなど)
 - ⑤ 日常生活の相談・助言
 - ⑥ 入浴サービス
 - ⑦ 足浴サービス
 - ⑧ 個別運動器機能向上サービス
(作業療法士による運動メニュー作成)
- ※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス



(足浴や脳トレの様子)

◇地域密着型通所介護 月別実績

(単位: 人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	20	19	20	20	17	20
収入額	766,110	781,560	839,920	828,090	671,840	786,200

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	23	21	19	21	19	241
811,620	832,490	741,510	662,590	719,320	781,030	9,222,280

(前年度) 利用者人数 261 人 収入額 9,304 千円

◇総合事業 月別実績

(単位: 人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	15	13	12	17	14	14
収入額	380,710	325,780	334,310	483,820	410,930	424,260

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	12	12	13	13	10	157
347,640	326,210	344,350	383,230	382,660	317,860	4,461,760

(前年度) 利用者人数 148 人 収入額 4,064 千円

◎一般介護予防事業（受託事業）

一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の 65 才以上の方を対象とした介護予防の為の教室で、脳トレやレクリエーション、運動等を指導・実践した。

（4 月 5 月については緊急事態宣言により休止）

（1 月の一部と 2 月は緊急警戒宣言により休止）

（単位：回・円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開催数	0	0	16	14	15	17
収入額	0	0	400,000	350,000	375,000	425,000

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
17	16	14	6	0	12	127
425,000	400,000	350,000	150,000	0	300,000	3,175,000

（前年度） 実施回数 162 回 収入額 4,063 千円

◎その他

1. 地域密着型運営推進会議

（新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、年 2 回開催予定が中止となる。）

2. いきいきクリスマス会の開催

（新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、開催が中止となる。）

3. 消火訓練・避難訓練の実施



令和 2 年 10 月 26 日（地震防災訓練）



令和 3 年 3 月 24 日（地震防災訓練）

IX 輪内高齢者サービスセンター

輪内デイサービスセンター

自立した日常生活を送ることを目標として、引きこもり予防や社会参加及び、要支援、要介護、障がい者の方を対象に、日常生活上の世話や機能訓練を行うとともに、介護をしているご家族の負担軽減を図るため、通所介護を実施した。



1. 地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

《サービス内容》

- ・入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ・送迎サービス
- ・生活指導（健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動）
- ・食事の提供

（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	23	24	25	25	23	22
収入額	1,658,509	1,897,227	1,829,574	1,889,286	1,747,606	1,675,847

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27	28	29	28	26	29	309
1,805,325	2,112,797	2,116,619	1,728,470	1,864,026	2,216,151	22,541,437

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	8	6	8	5	5	5
収入額	245,694	176,040	215,536	118,872	137,220	122,292

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	5	5	5	4	5	68
192,168	157,896	157,896	157,896	122,958	141,102	1,945,570

【障がい者通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	1	1	1	1	1	1
収入額	29,090	36,370	29,090	29,090	36,370	29,090

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	1	1	1	1	1	12
29,090	29,090	29,090	29,090	29,090	29,090	363,640

(前年度)	利用件数	収入額
地域密着型通所介護	303 名	21,037 千円
介護予防通所介護	86 名	2,638 千円
障がい者通所介護	14 名	366 千円

2. 一般介護予防事業

高齢化が急速に進む中、要介護・要支援ではないが、そのおそれがある高齢者向けの要介護予防を目的とした通所型一般介護予防事業（運動器機能向上・うつ・閉じこもり・認知症予防を目的）を尾鷲市より受託し、市内在住で 65 歳以上の高齢者向けの介護予防を実施し、普及啓発に努めた。

(月別請求額)

【一般介護予防事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	0	0	15	19	8	16
収入額	0	0	375,000	475,000	200,000	400,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	12	16	6	0	13	123
450,000	300,000	400,000	150,000	0	325,000	3,075,000

(前年度) 開催数 144 回

収入額 3,600 千円

尾鷲市から受託した一般介護予防事業について、地域住民が住み慣れた我が地域で安心して生活することを目標とし、尾鷲市福祉保健課と協議の上、週 4 回、年間 123 回実施し、その一翼を担うことに繋げた通所介護事業の使命が達成できた。

輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

(1) 社協業務の受付窓口としての機能

- ① 福祉相談窓口業務として相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った
- ② 輪内地区における募金事業の窓口として事業を推進した
7月 日赤募金 10月 共同募金

(2) 台風接近による高齢者サービスセンター避難所開設回数 無し

(3) 施設の適正な管理・運営に努めた

2. 輪内地区食の自立支援事業（委託事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、食事を作ることが困難な65歳以上の高齢者の方を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	31 名
延べ配食数	2,919 食
事業費	1,818,300 円
(うち市補助分)	(650,700 円)

地区別登録者内訳

(梶賀 1、曾根 3、賀田 10、古江 11、三木里 3、三木浦 3)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象以外の65歳未満の方が同居の住民に自主事業として、年間263食の配食サービスを実施した。

